

# I. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援

## 九州事業継続ブリッジファンドを活用したEBO事例

(金融機関名)西日本シティ銀行

1. 動機(経緯)	<p>平成19年5月、後継者問題に悩む地場中小企業の事業承継を支援するために、地元のファンド運営会社である(株)ドーガン・インベストメンツが組成する『九州事業継続ブリッジ投資事業有限責任組合(以下、九州事業継続ブリッジファンド)』に、独立行政法人中小企業基盤整備機構(以下、中小機構)と九州地銀5行(当行、鹿児島銀行、十八銀行、筑邦銀行、肥後銀行)とともに出資した。本件事例は、九州事業継続ブリッジファンドの1号投資案件であり、当行は事業譲受資金および運転資金を日本政策投資銀行と協調融資したものの。</p>
2. 概要	<p>福岡県大牟田市の工業団地に進出していた大手太陽電池モジュールメーカーの(株)MSKが福岡工場を閉鎖することとなり、同工場で働いていた従業員が同工場の事業譲渡を受け事業継続を図ったもの。九州事業継続ブリッジファンドは従業員が同工場買取りのために設立したYOCASOL(株)に投資。当行は事業譲受資金および運転資金を日本政策投資銀行と協調融資したものの。</p>
3. 成果(効果)	<p>事業譲渡は平成19年10月に完了し、平成19年11月より工場を再開。大手商社の出資・販売協力もあり、従業員数は当初の35名から72名(20年1月末)に増加。順調に生産を拡大している。本件が九州事業継続ブリッジファンドの投資第1号であり、地元金融機関としてEBOに対する融資支援もでき、当行の事業承継に対する積極姿勢をアピールできた。</p>
4. 今後の予定(課題)	<p>本件投資により、九州事業継続ブリッジファンドの知名度も上がり、運営会社に対する問い合わせも増えており、順調に投資案件は増える見込み。</p>

# ・ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化：事業承継の事例

## 《九州事業継続ブリッジファンドを活用したEBO事例》

- ◎ 大手太陽電池モジュールメーカー(株)MSKから福岡工場をEBOによって承継するために、従業員が設立したYOCASOL(株)に対して、九州事業継続ブリッジファンドによる出資、および日本政策投資銀行と協調融資による支援を実施した
- ◎ 九州事業継続ブリッジファンドは独立行政法人中小企業基盤整備機構と九州地域の5地銀(当行、鹿児島銀行、十八銀行、筑邦銀行、肥後銀行)が出資して組成したファンド

※EBO(Employee Buy Out) 従業員がファンド等と協力し自社を買収、株主兼従業員として会社を存続させるもの

